

1 日目 平成 29 年 12 月 26 日（火）

受付 10：00～10：30

開会式 10：30～10：45

挨拶

浦部利明先生（全放連・コンテスト委員長 東京都立稔ヶ丘高等学校長）

皆川裕紀先生（全放連・コンテスト運営委員長 埼玉県立川越女子高等学校）

★この講座では、地域や指導年数などにより 12 班に分かれて、顧問交流・意見交換を行った。

講座 1 「アナウンス・朗読指導（顧問交流）」10：45～11：45

『校内での課題・悩み』を出して、解決策を考える。

12 班（報告者が所属している班）

- ・予算が少ないため物品が買えない  
⇒学校や保護者に活動している姿を見せる
- ・発声練習をしない・発声練習をさせる工夫が分からない  
⇒大人が言うより生徒に言わせる  
顧問も一緒に発声練習をする。（時々見てあげないと忘れてしまう）  
本人の意識を高めるため、本番を多く作る（学校説明会、外部のイベントの司会など）  
基礎練習が少ないため、大会で上位になれない

昼食 11：45～12：30

講座 1 「アナウンス・朗読指導（模擬審査）」12：30～15：50

講師 金野正人先生（NHK 放送研修センター 日本語センター 専門委員）

I 『わが母の記』（井上靖 著）の一部の文章を読み、朗読の抽出をする

受講者は事前に配付された『わが母の記』の一部の文章を読み、各自朗読で読むならばどの部分を抽出するか考える。

その後、班で意見交換をして、班で抽出場所を決める。

【班で意見が出た抽出のポイント】

- ・セリフは入れたほうが良い
- ・2分で読めるのは原稿用紙1枚～1枚半。（4分の3の所にセリフがあると良い）
- ・初めに状況説明がほしい → 聞いただけで状況が分からなければならない
- ・その一部分で全体が分かる場面

【金野先生からのアドバイス】

- ・セリフを登場人物によって、しっかり読み分ける
- ・一人の実演を踏まえて、「痴呆症の人の話し方」「痴呆症の人へかける話し方」の違いに気を付けなければならない

## II 3名の模擬審査（第64回NHK杯アナウンス準決勝）

### 【金野先生からのアドバイス】

- ・取材は1人だけでなく、何人にも取材する
- ・つかみの文章で、聞き手を引き込む
- ・体言止めはダメという意見をよく聞く

## III 3名の模擬審査（第64回NHK杯朗読準決勝）

### 【金野先生からのアドバイス】

- ・声を作りすぎてもいけない
- ・間の長さは場面に応じて、適切な長さにする
- ・滑舌も大事であるが、全体を通してどのように聞こえたかである

## 講座2「実践発表：放送部の活動と指導法 ～??な放送部と共に歩む～」16:00～17:00

講師 荷宮嗣麿先生（広島県立呉三津田高等学校）

- ・憧れの対象を見つけて、その人を目指した
- ・指導の方法が分からないから、分かる人に指導してもらった。
- ・半端な取材では番組を作らせない → 「救い」がある番組を作る
- ・生徒をやる気にさせるには、顧問がたくさん行けば良い
- ・委員会などで人が少なく、練習不足 → いる人だけでやるしかない

2日目 平成29年12月27日（水）

受付 9:00～9:30

## 講座3「番組制作指導（顧問交流）」9:30～10:30

『校内での課題・悩み』を出して、解決策を考える。

12班（報告者が所属している班）

- ・機材操作のノウハウを下の代へ伝えられない  
→やりたいと思って作った代のすぐ下の代には伝わるだろう  
→説明書を読めば機材の使い方はわかる
- ・物語のオチがつまらない、面白くない  
→何を伝えたいのかを明確にする  
特にドキュメントはインタビューの羅列にならないように気を付ける
- ・権利処理の理解度が低い  
→どの大会でも使えるような許諾所があると便利

講座3「番組制作指導（許諾・権利処理）」10：40～12：10

講師 島耕一先生（神戸国際大学附属高等学校）

- ・番組制作に向けて
  - ★日頃からメモ帳と3色ボールペンを持たせて、気づいたことをメモさせる
  - ★取材するときには、生徒にアポイントを取らせるが、顧問の根回しも重要
  - ★取材時、撮影をするときの注意点
    - ①マンガは映ってはいけない（街中のディズニーは特に注意する）
    - ②個人が特定できないようにする（顔全体をぼかすなど）
- ・他校との交流会・合同練習会も行くと効果的

昼食 12：10～13：00

講座3「番組制作指導（番組技術と模擬審査）」13：00～15：50

講師 大本秀一先生（NHK制作局青少年・教育番組部 チーフ・プロデューサー）

I ラジオドキュメント3作品の模擬審査

【大本先生からのアドバイス】

- ・良くあるネタは色々な視点から作ってみると良い
- ・インタビューの音声が良いものがあったが、ラジオ番組は音声が命である
- ・「テーマ選び」「取材の深さ」「演出」の中でこだわりを一つ持つようにする

II 3校の顧問と大本CPのクロストーク

パネリスト：富山県立南砺福野高等学校 小林悠樹先生

広島県立呉三津田高等学校 荷宮嗣麿先生

千葉県立船橋高等学校 菊池春菜先生

「絵コンテなどの書き方でノウハウがない。どうすればよいか？」

ベテランの先生に聞くのが一番効果的である

「おススメの編集ソフトは？」

使いやすさは人によって異なるため、ソフトにこだわる必要がない

生徒が使いやすいものを選ぶのが良いが、次にあげるソフトを使っていた

「EDIUS」「Final Cut」「Pro Tools」

「インタビューの心構えを教えてください」

インタビューの前に雑談を入れると、緊張がほぐれて良い

疑問点は聞き返して解消しておくこと

Yes または No で終わる質問はしないように → 理由も聞き出す

閉講式 15：50～16：00

挨拶

皆川裕紀先生（全放連・コンテスト運営委員長 埼玉県立川越女子高等学校）

閉講式後、「審査員証」「講座1・3の交流シートデータCD」が配付されました。

**【受講後の所感】**

今回の受講を終えて、「顧問交流」という形で、全国の先生方と情報交換を行うことができ、とても良い機会となりました。

各講座においても、朗読では読むところの抽出に関するポイントや実際の審査をする上での注意点を知ることができ、多くのことを学ぶことができました。今後の指導などに活かしていきたいと思いました。番組作りでも制作の際のコツ、注意点などについて知ることができたので、生徒たちに話をしていければ良いと思いました。

■ 第 1 日目：12 月 26 日（火） 千代田放送会館

□ 講座 1：アナウンス・朗読指導（顧問交流）

各校の日々の活動

- ・毎日の活動：発声練習、ストレッチ（ストレッチ用のヨガマットを購入）
- ・昼の放送では顧問が原稿を作成する。学校の予定や話題、部活動の結果など  
ゲストを呼ぶ場合もある。内容に合わせて生徒たちが曲を選ぶ
- ・放送室がサーバルームになっているため、校内放送ができずモチベーションの低下
- ・原稿は生徒が作成し、顧問がチェックする（原稿用紙半分程度）  
最初は書き直しも多かったが、原稿の形を作ることで次第に書けるようになってきた

□ 講座 1：アナウンス・朗読指導（模擬審査）

講師：NHK 放送研修センター・日本語センター専門委員 金野正人氏

アナウンス

- ・読む部分だけでシーンがイメージできるようにする
- ・アナウンスは自分の意見を伝える場ではない
- ・ひとりに取材したものよりも複数人に取材した作品の方が魅力的な内容になる
- ・息を吸う音、自然に息の音が入ることはあってもよい。話をする中で息を吸う事は普通の事
- ・肩を広げて声を出す
- ・原稿を書いて読む。自分で取材しておもしろいものを書いて、聞き手に楽しんでもらう  
これを繰り返す

朗読

- ・読みの強弱をつける
- ・読み始めから場面のイメージができるように
- ・登場人物、特に初出のシーンはゆっくり話す
- ・センテンスごとに読むスピードを考える
- ・言葉を際立たせるため、アクセントを意識する

□ 講座 2：実践発表（放送部の活動と指導方法～？？な放送部と共に歩む～）

講師：広島県立呉三津田高等学校 荷宮嗣磨先生

- ・テーマのポイント：後々明らかになる事を早く伝える
- ・難しいことよりも楽しいことをたくさんやらせる、顧問が部室に行く
- ・日常生活の中から練習につなげる
  - 職員室に入ったら先生たちに自分を認識してもらえよう挨拶をする（発声、立ち振る舞い）
  - NHKのWebニュースに合わせて読む（それを録って聞く）

### □ 講座3：番組制作指導（顧問交流）

各校での取り組み

- ・いつもスケジュールが遅れるので、提出期限を前倒して生徒へ伝える
  - 教員側でスケジュールを決めて、それに間に合わなければエントリーしない
- ・PCが2台しか使えない。先にドラマを作らせる。終わらないとドキュメント班が作業できない
- ・とりあえず荒い状態で1本作成する。それを見ると修正すべきところが見えてくる
  - 修正することが前提だが時間がかかる
  - 「おもしろい」をはき違えている生徒が多い。自分がおもしろい≠みんなおもしろい
  - 複数の教員に見せて修正する
- ・ドラマは台本がすべて。如何に予め作り込みができるか
- ・上位の学校は著作権の使用料を払って他者の著作物を活用している
- ・「音」がよく録れている、使えている作品が強い
- ・県が主催するPR動画募集のコンテストなどに応募して、賞金を貰って部費の足しにする

## ■ 第2日目：12月27日（水） 千代田放送会館

### □ 講座3：番組制作指導（許諾・権利処理）

講師：神戸国際大学付属高等学校 島耕一先生

創作テレビドラマ

- ・身近なテーマで光る作品（恋愛や友情などの学校、日常生活）
- ・技術が光る作品
- ・斬新な設定が光る作品（ありそうでない架空の部活動など）

テレビドキュメント

- ・身近なテーマを調査（スマホ、部活、授業など）
- ・部活や授業に見る本気に注目（学校独自の行事、伝統と向き合う姿）

- ・人に注目した作品（特徴的な人、特殊な環境の人など）
- ・地域に注目した作品（その土地の課題を掘り下げる）

### □ 講座3：番組制作指導（技術と模擬審査）

講師：NHK 制作局青少年・教育番組部チーフ・プロデューサー 大本秀一氏

テーマ、取材の深さ、演出（おもしろく、わかりやすく）

- ・3つを均等にするとおもしろ味が減ってしまう
- ・どこに重点を置くか、何を狙っていくかを考える（足りない部分は教員が助言する）

ラジオドキュメント

- ・ドキュメントならインタビュー（ドキュメントはインタビューが命）
- ・聞く人にとって、発想や想像力が生かせるもの
- ・まとめ方に悩んだら原点に戻る
- ・インタビューを始める前に雑談を入れて場をほぐす
- ・聞いて疑問に思ったことは追加で質問する
- ・Yes/No で答える質問はなるべくしない
- ・最初は答えやすい質問から本質に入っていく
- ・インタビューの意図を説明する
- ・気持ちを聞く

ラジオドラマ

- ・1日1本プロットを作る。週末にそれらを見比べてダメ出しをしていく
- ・NHKでは伝えたいことを絞って削ぎ落していく
- ・ドラマは臨場感。聞いた時にその場面をイメージできることが必要
- ・「高校生らしい」が難しい
- ・高校生目線。大人は当たり前と思う事でも生徒にとっては大事だったりするようなこと
- ・他人の作品をよく見る
- ・テロップを入れすぎない。すべてに文字入れはしない（伝えたいところがどこなのかわかりにくい）
- ・撮るものの意味をチーム内で共有する
- ・企画会議でやってみたいネタを持ち寄ってお互いで意見を出し合う